

# 夏合宿報告書

SAC

'03

信州大学山岳会



8/24 ~ 9/1

劔岳周辺

もくじ  
P1~P3 記録  
P4 環境  
P5~P6 個人感想  
P7~2: 雑記

夏合宿 8月24日～8月31日

メンバー L佐藤祐樹(4) SL片寄哲生(3)  
高谷英太郎(2) 三森岳志(2) 小尾智明(1)  
加藤なゆ樹(1) 高橋昭彦(1) 島中洸(1)

入山地域 剣周辺

8月24日 5:00 BOX集合 9:30 内蔵助谷出合  
7:30 扇沢出発 12:40 内蔵助平T. S  
7:45 黒部ダム

夏合宿恒例の炎のアプローチ……のはずが皆早い。この重さ程度では全然こたえていないようだ。といっても40kgはあるはずなのだが。彼らを限界に追いやるためには60kgぐらいかや。来年は熊の岩にサマテンを設営できそうだ。

8月25日 3:00 起床 10:00 真砂沢ロッジ  
4:25 出発 11:00 長次郎谷出合  
6:33 はしご谷乗越 14:00 熊の岩B. C

この日も皆早い。ただ、さすがに長次郎の雪渓で多少ペースダウンしたが、14:00には熊の岩に到着。今年は雪も多く残っていて、熊の岩まですべて雪渓沿いに行くことができた。熊の岩は相変わらずの楽園であったが、ゴミが非常に多い。缶やら、アイゼンの爪、袋等散乱している。後にゴミ拾いをしたが、ゴミ袋がいっぱいになるほど貯まった。管理されていないからこそ個人個人のモラルが試されているが、ここでは残念な結果になっている。全体を通してこのアプローチ2日間で最も天気が良かった。

長次郎で意識のある奴はあと10kg足せる!! (記録帳より片寄)

8月26日 5:00 起床 6:40 フィックス隊出発  
5:40 沈殿決定 9:45 フィックス隊到着

小雨が降ったり、止んだりが続く。夕方には猛烈な夕立。フィックス隊には三森、高谷、片寄の3人で行ってもらう。今思えば、小雨程度だったら剣稜会、5峰などは登れたかもしれない。が、岩は確実に濡れていたの

で、やはりリスクは大きいと思う。難しい判断であったがこれでよかった。本チャンに対してはより慎重になるべきであり、隊の構成、疲れ等から判断し柔軟に対応すべきである。

8月27日 3:30起床 10:20源次郎尾根P1  
4:45出発 11:20源次郎尾根P2  
5:50長次郎出合 13:05剣岳山頂  
6:05平蔵谷出合 15:40B.C着

朝から雨、雨、雨……。ずぶ濡れ覚悟で出発。しかし、源次郎尾根P1に着く頃に晴れ始めて、山頂に着く頃には青空が広がってきた。予想外の展開に皆、狂喜乱舞。晴れた山頂からの景色は美しかった。やっぱりトップは楽しいね今日は晴れたし面白かった。(記録帳より三森)

8月28日 4:00起床  
9:45沈殿決定

雨と強風。何もできずにテント内で悶々と過ごす。  
片チン、ナヨチンコンビが結成。CDデビューして欲しいです。  
(記録帳より畠中)

沈殿は考えることが多い。妄想が止まらない。。。(記録帳より三森)

8月29日 4:00起床  
5:00出発  
5:20岩小屋

(佐藤,畠中,小尾) 剣稜会 7:00~9:20,富山大 11:10~14:20,16:10B.C着  
(片寄,高橋,加藤) R C C 7:00~10:15,魚津高 12:00~14:30,16:20B.C着  
(高谷,三森) 5峰 5:50~7:55,魚津高 9:05~10:45,剣稜会 11:55~13:55  
15:30B.C着

い,岩が乾いている!今しかない!というわけで、皆むさぼるように登る。  
14:15頃よりまた雨が降り始める。この日、岩が乾いて本当に良かった。  
魚津高、爽快!! (記録帳より高橋)

8月30日 4:30起床 6:50出発  
6:00リーダー会 7:05岩小屋

(佐藤,島中,小尾) 5峰 7:23~10:40,熊の岩 12:05~15:30,16:15B.C着

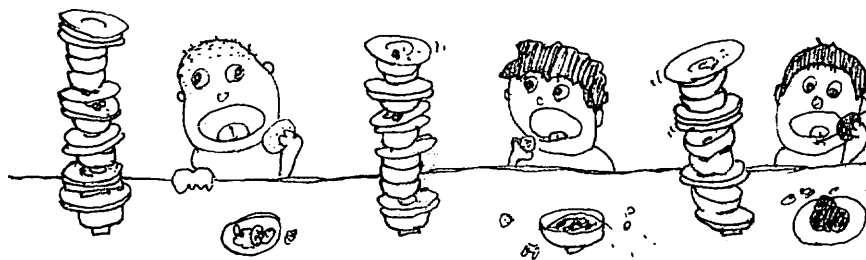
(片寄,加藤,高橋) 5峰 7:45~11:00, 12:45B.C着

(三森,高谷) 剣稜会 7:00~8:45、フィックス回収後,10:40B.C着

朝から小雨。しかしこの高まる気持は抑えられん。濡れていても行けそうな5峰と剣稜会を登る。佐藤隊はB.Cから真正面の熊の岩が乾いていることに気付き、早速取り付く。スラブあり、ハングあり、ついでにハイマツ漕ぎありとなかなか楽しめる。初めて熊の岩の上に立ったが、ここは本当の楽園であった。

8月31日 3:30起床 9:30ハシゴ谷乗越  
5:05出発 11:52内蔵助平  
6:20長次郎出合 16:30黒四ダム  
7:00真砂沢ロッジ

朝、小雨の中、出発。ハシゴ谷への登りで豪雨となる。飛鳥の「はじまりはいつも雨」を歌いながら登っていく。ハシゴ谷の下りがひどかった。登山道はことごとく川と化し、ひどい所では腰までの深さとなった。ザブザブザブザブ。皆テンションが上がる。バスの時間に間に合い、無事合宿が終了した。この後、食い放題へ。



### 【夏合宿総括】

まず無事に終わって良かった。しかし、まだまだ危険な要素が内包していたように思う。ということは、たまたま事故が起こらなかったと言うことである。例えば、昨日通った雪渓が崩れたり、落石も多少ながらあった。より確実な安全性が必要である。上級生は様々な危険要素に対してもっと敏感になることが大切だ。些細な、細かいことでもそこから一大事になるのである。もっともっと、危険認識のアンテナを広げてもらいたい。

天気は常に前線が停滞し、アプローチ以外のほとんど晴れ間は無かった。そのなかで、八つ峰に登れたのはまあ良かったが、やはり消化不良であろう。せっかく熊の岩にいながらみすみす沈殿はもったいない。岩がだめなら一泊縦走隊を出す等のなんらかの工夫が欲しい。来年の計画書には雨の想定も入れて組むようにすべきだ。

登攀に関してはあまり登れなかった仕方あるまい。天気に怒ってもしようがない。ただこれから、1年生、2年生ともにガンガン本ちゃんに行つて欲しい。岩があまり好きでない者も、来年1年生を引っ張っていく身として、ある程度の実力は身に付けなければならない。頑張つて欲しい。

1年生はよくやっていた。ボッカは多少軽かったかもしれないが、あの荷物でこのコースタイムであるければ、何も文句は無い。しかし、精神面ではいささか準備不足であった。これはそのまま隊全体の反省にもつながるのだが、合宿に対する意識といったものが欠けていた。合宿は隊全体で一つの事をやり通すことであり、そこに一人一人の意識がなければ全体として一つにまとまることは無い。1年生も、2年生も、自分は山岳会の隊の一人である意識を高めて欲しい。山岳会は自分を抜きにして一人歩きしているのではなく、自分を内包しつつ自分が動かしているのだという気持、意識が欲しい。特にこれから冬に向けてそれを強調しておきたい。

夏合宿の反省を次の冬合宿につなげよう。冬はもうすぐそこまでやってきている。

(文責 佐藤)

個人の

反省・感想



## 夏合宿の反省 一年 小尾 智明

今回の合宿がけ 体力、技術、精神などいろいろ  
たがことが不足していた。これは事故のもとであること  
も十分にわかった。何度も事故に陥りうる失敗が  
おこっている。これは気のゆるみからくるものた。  
いつも気を引きしめて山に登ることが今後の課題

である。また 朝の110ツキや又110ツキをばこと、  
マイゼンの着用などには時間がかかりすぎることも  
反省として挙げられる。山からのことをすばやく  
行なうことができなかったのは命に関わることに  
なる。前の日にできることはすべてやっておくよう  
にして、正格かつすばやく行えるようにして置くことが  
課題である。

良かったこととして、クライミングは落石も滑落も  
せず、無事に登り終ることができたこと。

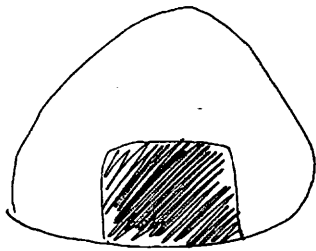
今回の初めてのアルパインクライミングは自分にとって  
言い経験になったと思う。毎朝練習している  
朝の岩トレをやってきたことを発揮できたと思う。  
もっとさらなる努力をして難かしいルートにも  
挑戦できるようにがんばりたい。

雪渓の登りや下りだけ アイソンの歩きがうまく  
いかなかった、練習の時間もとって、もう一回大変な  
感を出して、今後は正確かつおぼろげに歩けるよう  
にしたい。

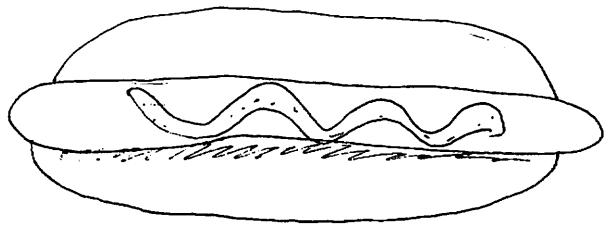
また地形図を忘れたこと反省点である。  
もう忘れ物をいかにするために前日のチェック、当日のチェック  
を忘れずにしたい。

この山の課題を冬合宿までに克服し、結果を  
残し、良い意味での自信をもって臨むこと  
の出来るようがんばりたい。

以上。



オニギリ



レーゼ-ジパン



# 自分という壁

高橋昭彦

最終日、吹き荒ぶ風雨は、中途半端な状態で入山してきた自分を、剣の神が痛めつけるかのようにあった。

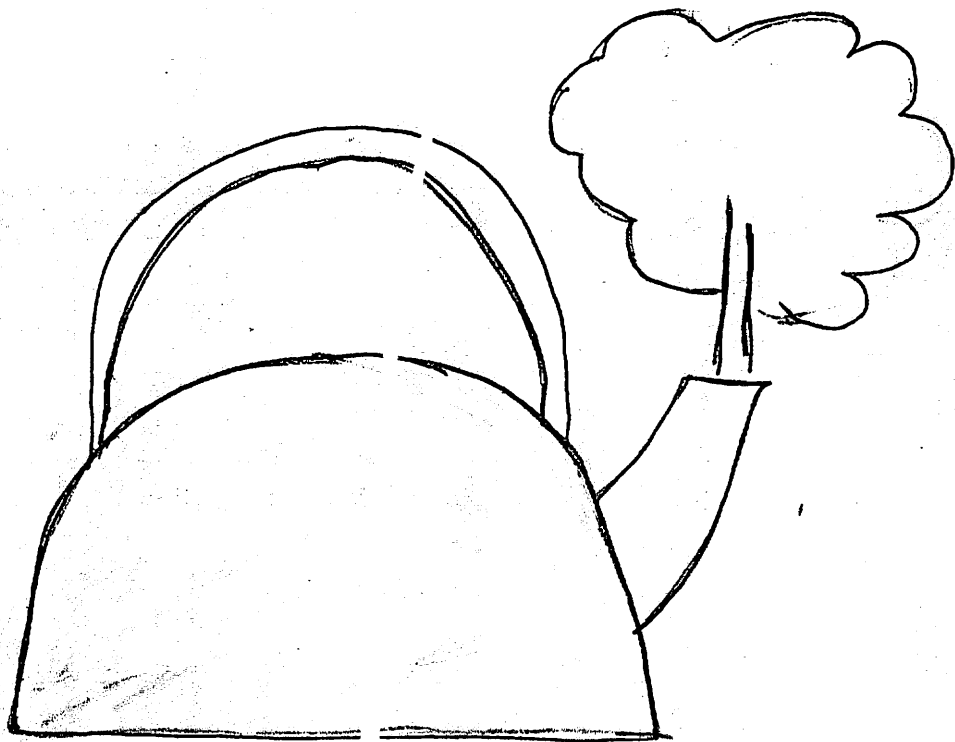
今回の合宿は、新人合宿が最高のモチベーションで臨めた山行だった。逆に最位の状態での上行であった。~~体~~体カや技術は基より、精神的な心構えが全く変わっていった。普段であれば山であれ壁であれ登って下ろうという気で満ちているのだが、今日は「これから山に登ろう」という気力が萎縮していた。これは小屋として矢張り格である。危険の多い夏合宿に参加する者としても矢張り格である。そして、何より、我々一年の安全を預る上級生に対しても申し訳ない。これのことは、おそらく事前の準備中トレニングが不足していたから~~事~~事のちがう。いずれにせよこのままでは冬合宿を迎えることは到底できない。8月は、今まで一番山に入ることができた月であったが、その分山に登れるありがたみや緊張感が薄れてしまった気がする。今後は、一回一回の山行を大切にすると共に、改めて山に対して畏敬の念を持ち、敬虔な態度で臨みたい。そして9月末には郷里で山田昇杯が開

催される。おそらく、そこでも痛い目を見ることになると思  
うが、少しでも精神的に立ち直る踏み台としたい。これ  
にしても6月から続くモテデーの休下は尋常じゃ  
ない。丁度この時期は新人合宿も終わり山岳会  
にも馴染み始めた頃だ。蓋し、そろそろ自分にも山  
に対する考え方の(つまり、高校の頃から大学山岳会へ  
の)転換期が来ているのだろう。今後はこれを模  
索し、迷いを無くして山に向かうことが大きな課  
題となりそうだ。登攀についても、今回は天候が悪か  
たということもあって、あまりイキサバすることはできな  
かった。精神的な構築ができてきたこと  
もあるが、本チャンの真髄はこんなものではないというので、  
個人山行で積極的に付いていきなり登りたルート  
の難星を付けていきたいと思う。そして来年こそは千ネ  
の左稜線に登ってやる!

気が付けば夏は終わり、冬将軍は間近に迫って  
いる。今後の合宿は更に厳しく、自分の山屋や人間性の  
資質が問われることになるだろう。山岳会の上級生  
達は皆広い心を持っている、というか人間的に深い人  
ばかりだ。これは厳しい山や自分と幾多の場面で向き合っ

またかろうなのだろう。自分という壁は容易に越えられ  
るで越えられない。寧ろ、最近では越えようとするほど程、高  
く厳しくなっていく気がする。冬將軍を踏み台とできるか。  
それでも打ちのめされししまうのか。として、口元シカになっ  
てしまふのか。全ては自分の意志と行動で決まる。

03. 9. 2. ~~10/10~~



ヤ-ウ-ン

# 夏合宿の反省・感想

(畠中 光)

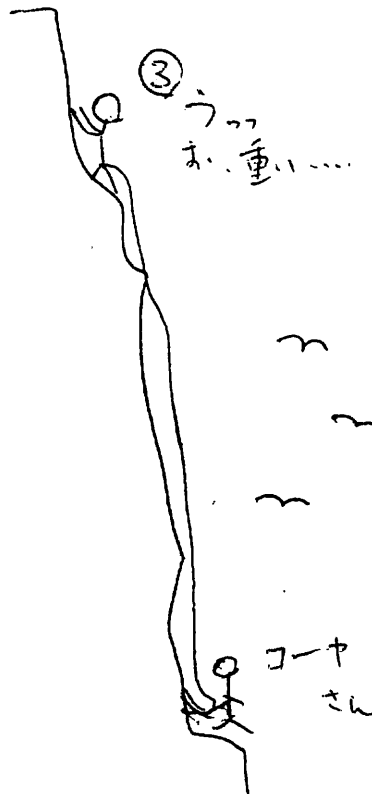
今回の夏合宿における反省点は集中力不足にあった。ザックを岩角にぶつけないように注意するように言われた直後にそのとまりのことでしてしま、たことがあった。その時は足もとに注意がいていて岩の飛びほりに気づかなかつたのだが、山を歩くときは常に足もとだけでなく自分のまわり全体に気を配っていないと危険であると感じた。また、落石しないように歩くことにもそのような集中力が必要だった。最初は集中できていたのに、長時間歩いていいるうちに集中力が維持できなくなった。集中力の維持が今後の大きな課題になったと思う。

反省すべきことはたくさんあったが、夏合宿は本当に楽しい合宿だった。チンネに行けなかったことは心残りではあるが、来年こそはまゝに行けると思う。今回課題となった集中力や体調の管理、手際の悪い行軍力を身につけて来年の夏合宿をむかえられるように努力しようと思う。

# 反省・感想

高谷 英太郎

今回の合宿は、本キャンプでのリード、Fix工作等プラスになったこともあったが、基礎的なことでミスをしてしまったのでその点は反省あるのみである。近頃少しずつであるが山を見る視野が広くなってきたので、これからその視野を広げていきたいと思う。登山は理論ではなく実践なので、これからは山に行きまくって、経験、実力を上げ上げていきたい。なによりも山を楽しむことが大事である。



ザイルの流れの悪さに  
苦しむ 三森……

## 夏合宿の反省・感想

三森武志

今年の夏合宿は雨ばかりでろくに登攀もできなかったけれど、それでも反省点はいろいろと浮かんできた。まず合宿に対する姿勢がおろそかになっていたということだ。リーダーにも言われたが縦走、サマテンとたてつづけにやってきたせいで油断が生まれたのだと思う。またトップをやっていて気づいたのは未だに佐藤さんや片寄さんに指示を仰いでしまって主体的に行動できないということだ。これらのことは受身で山に登っているというようなことだと思う。こんなことでは目の前に危険があっても気づくことはできないし、気づかなければ何かしらの対処をすることもできない。これからの冬山では2年としてガンガン前に出て行動しなければならない。受身では同じことを経験してもとらえ方がまったく違ってくる。今年の冬合宿に向け積極的に山行に関わっていきたい。

それにしてもこんなに雨ばかりでまったく登れなかつたりすると本当に気が滅入る。熊の岩というあんないい場所にて丸1日惰眠をむさぼるといのはなんだかなあなんて思ってもまったく不思議じゃない気がする。せっかく合宿としてきたんだからもっといろいろやりたいと思って同然じゃないだろうか。でも頭の中では無理すんなと警鐘がなっている。こうもやりきれない日が続くと理性と感情で折り合いをつけるのはなかなか難しい。山という自然の中に入って行く以上、気象という要素も当然受け入れて山と付き合っていかなければいけないんだろうなあ。



夏合宿もすでに三度目。早いものだ。

あの道(内蔵助平)を歩くのも三回目。といっても今回は初めて尋常な荷物の量で歩いた。

昨年の大歩荷では始めから終わりまでほとんど意識がなかったつもりだったけれども、余裕を持って改めて歩いてみると、ほんの些細なことまで記憶していることに我ながら驚いた。例えば、去年の今ごろヤッシーの不信任選挙やってたなあーとか、ここでうんこしたなあーとかである。

いずれにせよ、信大山岳会夏合宿における熊の岩への道のりというものは、幾多の歩荷の中でもあらゆる意味で最高であるべき存在感を備えていることは間違いない。内蔵助平のだるい道のりも飽き飽きしているようで飽きないのはそうしたことによるのかもしれない。

今年の歩荷はここ二年間に比べるとかなり易しかった向きがあって、熊の岩に着いたのも驚くほど早かった。来年は目にもものみせてもらおうとしよう。

さて、今回の合宿だが何よりもまず天気恵まれなかった。

雨が降っては登攀はできない。かと言って雨だから何もできないわけでもないのだが、やはり僕たちは剣を登るためにあそこへ行くのだから、最低限晴れてくれなければ夏合宿の立場がないと思った。

熊の岩から目前にⅥ峰フェースが見えていながら登れない。テントの中でいじいじしている。実にやるせなかった。これではチンネに行きようもない。

まあ今年今年でもうあきらめた。来年の登攀への意欲につなげよう。

来年はⅥ峰、チンネもいいが、マイナーピーク東面スラブへ行こう！

### 《反省》

一番の反省点は、合宿中よりも合宿前つまり準備段階にある。

合宿へ向けて自分も含む現役全体の気持ちを引き締めていくことができなかった。3年としてすべきことは、登攀の装備の不備確認云々よりも、リーダーに代わって会の士気を合宿に仕向けていく位の勢いであったと思う。これを怠ったことが結局は準備の段階での不備、ひいては入山してから問題が発覚するなどというあってはならない結果の一因であることだろう。

1、2年は何にも考えずに自分の技術を高めることに専念しても構わないだろう。それに夢中になる分おろそかになりがちなのは3年以上が責任を持つべきなのだろう。1、2年の勢いを合宿に向けて修正してやると同時にそれを会の士気増強に活かしていく。こういう仕事をするのが3年という立場なのだろうか。

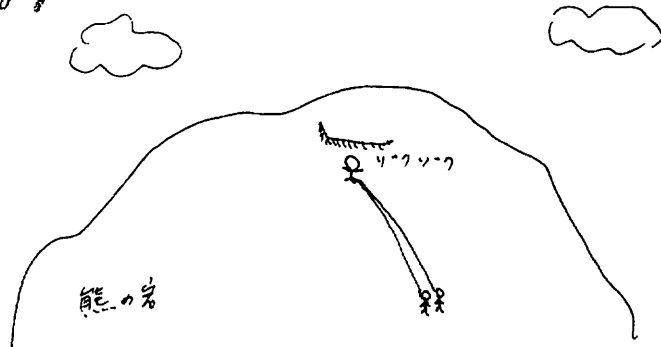
冬合宿では気のゆるみが事故を招く。冬合宿に同じ失敗は許されない。



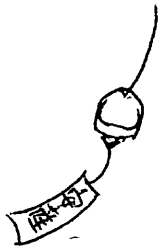
# 夏合宿の反省・感想

佐藤 祐村

反省は小総括で述べた通り。個人的には熊の岩に登れて満足している。やはり何もわからぬ。ル+図も支点もくそもない。冒険的登山にはおもしろい。次に何か出てくるかゾクゾクする。目の前にリングが出てきた。おは～あれは行かないか～行くしかない。とアドリブリンがドクドク抽出されるのがわかる。こういう登山もまた格別である。



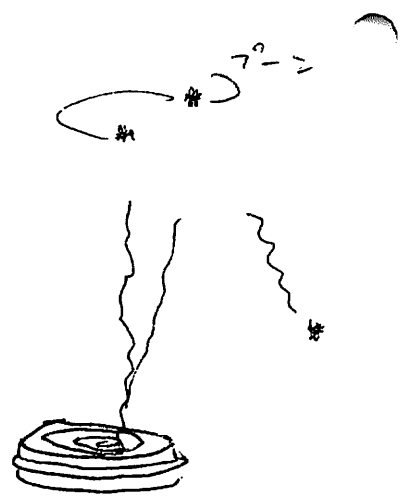
アソビ  
カマシ



44-

係からの

反省感想

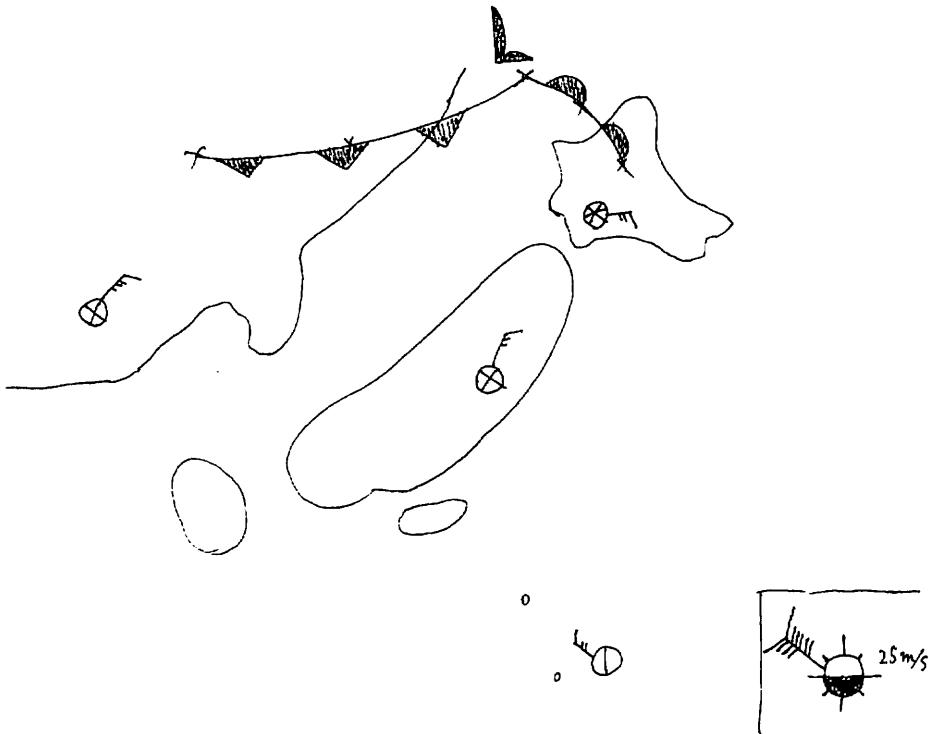


## 装備

- ・紛失、破損…マンドリン1、カラビナ1、ティンバーフライ1
- ・FIXは草付きにもう30~40mはほしい。
- ・事前のシーバーの確認
- ・白ガスは余裕のある量を持っていく
- ・ティンバーのフライがもうビリビリ。新しく買うかこれに代わる装備テント。
- ・やかんの修理

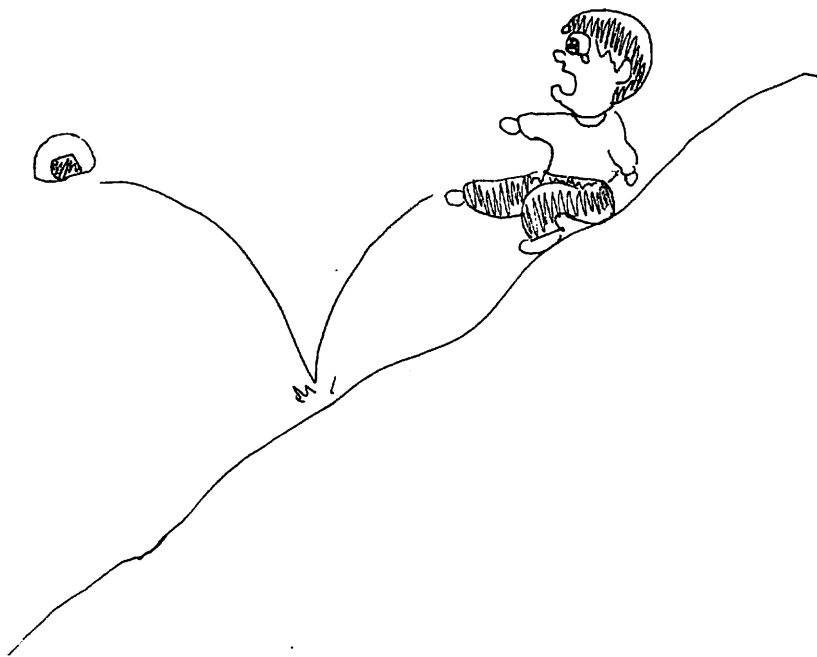
## 気象

- ・1年は天気図を完璧にかけるように
- ・山岳会全体でもうすこし気象、観天望気の知識をつける



# 休(エッセン)の反省

- 米は1人2合くらいも、7い、7もいいのでは。
- 野菜は多めに。
- マカホリの分量は、必要なおぶんだけしかりと持、ていく。
- トハン日は、昼めしだけで充分。
- 昼めし、レージョンは、中味を吟味して持、ていく。
- おやつに - エ末を。



係の反省

《会計・渉外》

初めに現役留守をしてくださった方ありがとうございました。

会計報告

《入金》

合宿費  $14000 \text{円} \times 8 \text{人} = 112000 \text{円}$

《出金》

- 食料・装備  $45470 \text{円}$

トロッリ-バス  $1260 \text{円} \times 8 \text{人} \times \text{往復} = 20160 \text{円}$

ガス代  $4100 \text{円}$

---

残金  $42270 \text{円}$

・残金は 8人で分配  $42270 \div 8 = 5283.75$   
 $\approx 5280 \text{円}$

余り 30円

《医療》

- ・今合宿では目立った怪我がなくてよかった。
- ・もう少し個人の体調管理を促せばよかったと思う。
- ・夏合宿での怪我と言えば落石などによるものが主であることを考えれば、もっと救急的なとを身に付ける必要がある。これは医療係に限らず一人一人で大変なことだろう。
- ・次の合宿の際には、医療缶リストを計画書に含めよう。

SAC

印刷日 10/8.

編集：佐下

表紙：富中